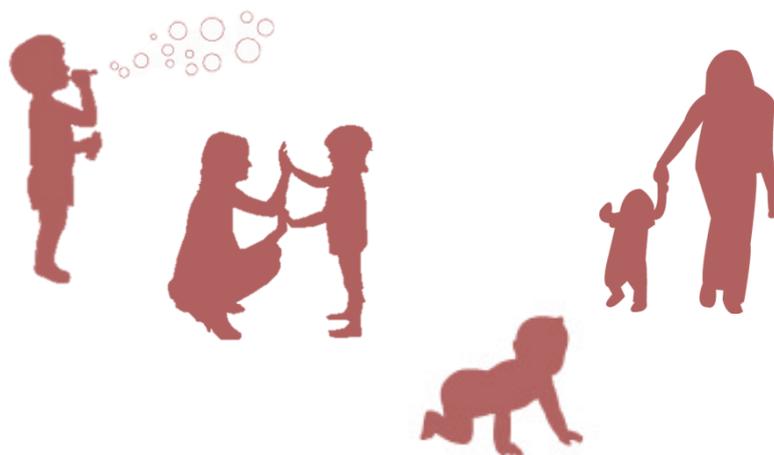




# 横浜で生活する就学前の外国人親子のための 日本語学習支援・子育て支援 調査報告書

－「就学前の子どもと親の支援に関する取組調査」から－



公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

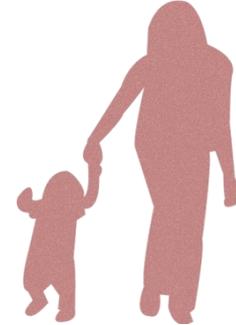
2015年3月

# はじめに

---

日本語ができないから  
幼稚園や病院の先生と話せない

出産前は日本語教室で勉強していた。  
今は子育ての話をするのが勉強になる



— 2014 年度「就学前の子どもと親の支援に関する取組調査」  
ヒアリング内容より抜粋

本報告書は、2014 年（平成 26）年度横浜市委託事業（日本語学習コーディネート業務）として公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）が行った「就学前の子どもと親の支援に関する取組調査」の報告書です。

横浜市には約 150 か国地域約 78,000 人の外国人が生活しており（2015 年 2 月末現在）、「横浜市外国人意識調査報告書」では、子育て中の外国人の子育て支援、日本語学習支援へのニーズが明らかとなっています。「ヨコハマ国際まちづくり指針」（2007 年横浜市）においても、外国人が住みやすいまちをめざす上で、コミュニケーション支援としての日本語学習支援、生活支援としての子育て・教育に関する支援が重要な取り組みの一つとなっています。しかし、「日本語学習支援」と「子育て支援」は、特に就学前の親子についてはニーズが重なる部分でありながら、日本語学習支援として十分な状況把握を行っているとはいえませんでした。そこで、本年度の事業として、横浜市の状況を把握することになり、本報告書はその調査結果をとりまとめたものです。

網羅的な調査とはいえませんが、この報告書がきっかけとなり、地域における日本語学習支援と子育て支援の連携に向け、何らかのヒントを提供できれば幸いに存じます。

最後になりますが、本調査および報告書作成にあたりご協力いただきました日本語教室や関係団体の皆様に、この場をお借りして心からお礼申し上げます。

2015 年 3 月  
公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

# 目 次

---

はじめに  
目 次

## I. 横浜市の外国人をとりまく状況

---

- 1 横浜市の外国人人口 p 4
- 2 国際交流ラウンジ～国際交流・多文化共生の地域拠点～ p 4
- 3 日本語学習・子育て支援への外国人ニーズ  
— 平成 25 年度横浜市外国人意識調査報告書等から — p 5

## II. 就学前の子どもと親の支援に関する取組調査

---

- 調査概要 p 6
- 調査 1 横浜市内の子ども連れで参加可能な日本語教室数 p 7
- 調査 2 地域子育て支援拠点における外国人の利用状況と支援 p 8
- 調査 3 ヒアリング調査「日本語学習支援団体／子育て支援団体の取組」 p 10
- (1) ヒアリング調査の概要 p 10
  - (2) 団体別データ p 11
  - (3) 外国人参加者（利用者）の声-ヒアリングから- p 18

## III. 調査を終えて

---

- 1 調査から見てきたこと p 19
  - (1) 日本語学習支援団体／子育て支援団体の取組から p 19
  - (2) 外国人親子支援としての、日本語学習支援・子育て支援のニーズと場の提供 p 21
- 2 調査を受けて ～日本語学習コーディネート業務アドバイザーから p 23  
石井恵理子先生（東京女子大学現代教養学部教授）  
中山利恵さん（日本語教師）

## IV. 参照サイト

---

参照サイト p 24

# I. 横浜市の外国人をとりまく状況

## 1 横浜市の外国人人口 <http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/>

横浜市には約 150 か国地域 77,984 人の外国人が暮らしています（2015 年 2 月末現在。横浜市調べ）。市民の約 48 人に 1 人（2.1%）が外国人です。



## 2 国際交流ラウンジ ～国際交流・多文化共生の地域拠点～

[http://www.yoke.or.jp/3lounge\\_renkei/3\\_2lounge.html](http://www.yoke.or.jp/3lounge_renkei/3_2lounge.html)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/multiculture/internationalounge/>

横浜市では、市内の在住外国人支援・国際交流・多文化共生のために、11 か所の国際交流ラウンジを設置しています。運営には市民活動団体、NPO 法人、公益財団法人などがあたり、多くの市民ボランティアが関わっています。

国際交流ラウンジの活動



市内在住の外国人のための  
生活情報提供/相談を多言語で実施

日本語教室の実施

通訳ボランティア派遣

日本人との交流活動

その他様々な活動

名称	所在区
青葉国際交流ラウンジ	青葉区
いずみ多文化共生コーナー	泉区
金沢国際交流ラウンジ	金沢区
港南国際交流ラウンジ	港南区
港北国際交流ラウンジ	港北区
都筑多文化・青少年交流プラザ	都筑区

名称	所在区
鶴見国際交流ラウンジ	鶴見区
なか国際交流ラウンジ	中区
保土ケ谷区国際交流コーナー	保土ケ谷区
みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	南区
YOKE 情報・相談コーナー	西区

### 3 日本語学習・子育て支援への外国人ニーズ

～平成 25 年度横浜市外国人意識調査報告書等から

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/multiculture/chosa/h25report.pdf>

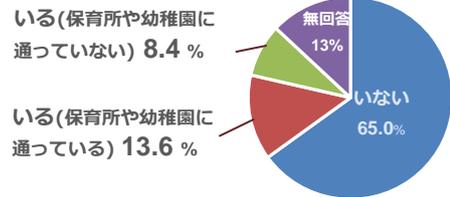
「平成 25 年度横浜市外国人意識調査（横浜市政策局国際政策課）から、未就学の子どもを持つ外国人親のニーズを探りました。

#### ■■ 「困っていることや心配なこと」

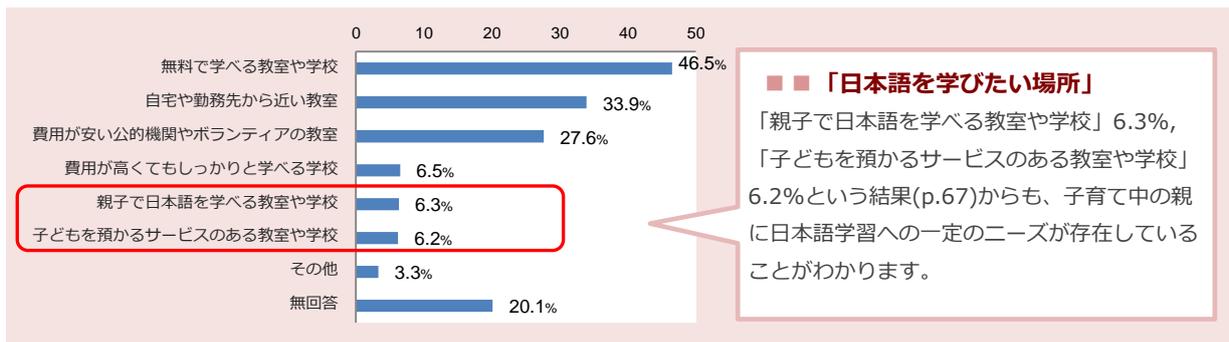
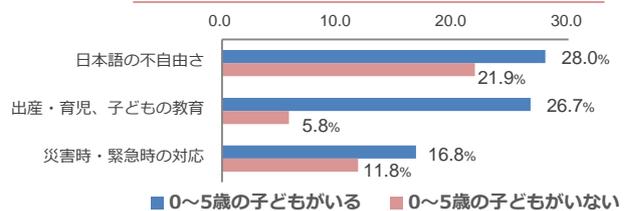
外国人意識調査に回答した外国人のうち、本報告書の対象となる就学前の「0 歳～5 歳の子どもがいる」人は全体の 22.2%となっています(意識調査報告書 p.15。以下、同)。

「困っていることや心配なこと」について、0-5 歳の子どもがいる世帯では、いない世帯に比べて、「日本語の不自由さ」「出産・育児・子どもの教育」「災害時、緊急時の対応」を上げる割合がとくに高くなっています(p.46)。乳幼児を育てる外国人がこれらの項目に対してより不安を抱えていることから、この時期にこそ日本語学習支援や子育て、生活に必要な情報支援が重要であるといえます。

0 歳～5 歳の子どもの有無（回答 1,505 人中）



子どもの有無別 困っていることや心配なこと

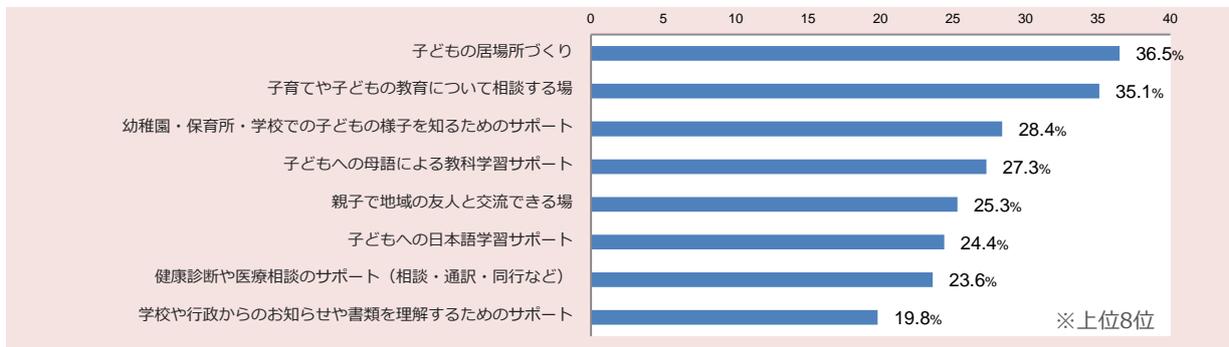


#### ■■ 「日本語を学びたい場所」

「親子で日本語を学べる教室や学校」6.3%、「子どもを預かるサービスのある教室や学校」6.2%という結果(p.67)からも、子育て中の親に日本語学習への一定のニーズが存在していることがわかります。

#### ■■ 「子育てや子どもの教育に関する支援」への希望

「子どもの居場所づくり」36.5%、「子育てや子どもの教育について相談する場」35.1%、「幼稚園・保育所・学校での子どもの様子を知るためのサポート」28.4%等、多様な支援への希望が寄せられています(p.96)。さらに、親の日本語習熟度によっても「子育てや教育に関する支援への期待」が異なっている (p.97) ことがうかがえます。



また、「平成 25 年度横浜市外国人インタビュー調査報告書」でも、外国人の声として「子どもを育てることを通じて、私は本当に日本をよく知るようになりました。」「子どもがいると知らない人にも声をかけやすい」など、子育てを通じて日本社会とつながりをもつことが実感として語られています。

#### 平成 25 年度横浜市外国人インタビュー調査報告書（横浜市国際政策課）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/multiculture/chosa/h25interviewreport.pdf>

## Ⅱ. 就学前の子どもと親の支援に関する取組調査

### 調査概要

本調査の概要は、次のとおりです。

◎ **調査名**：就学前の子どもと親（\*）の支援に関する取組調査

**（\*）0歳から5歳までの子どもがいる外国人等**

◎ **調査目的**：今後、日本語学習支援分野と子育て支援分野との連携を図るため、関連団体へのヒアリング及び実態調査、日本語学習支援に関わるニーズについての状況把握を行う。

◎ **対象**：①地域日本語教室のうち、子育て支援と関連したプログラム（親子を対象としている、保育サービスを行っている等）を行っている団体。

本報告書では、「**外国人親子が参加できる日本語学習支援団体**」といます。

② 地域子育て支援拠点等、子育て支援を活動の趣旨としている団体

本報告書では「**外国人・日本人を問わず親子が参加できる子育て支援団体**」といます。

◎ **調査方法**：状況調査（日本語学習支援団体）、アンケート調査（地域子育て支援拠点）、ヒアリング調査（横浜市内外の13団体）

その他、プレ調査としてヒアリングを実施（横浜市内外の5団体）

◎ **調査期間**：2014年5月～12月

◎ <b>対象</b>	 <p>①外国人親子が参加できる 日本語学習支援団体</p>	 <p>②外国人・日本人を問わず 親子が参加できる 子育て支援団体</p>
◎ <b>調査方法</b>	<p><b>調査 1</b> (p.7-)</p> <p>「横浜市内の子ども連れで参加可能な日本語教室数」 → 状況調査 「日本語教室データベース(横浜)」にて子どもを連れて参加が可能な日本語教室を抽出。</p>	<p><b>調査 2</b> (p.8-)</p> <p>「地域子育て支援拠点における外国人の利用状況と支援」 → アンケート調査 横浜市内 18 施設を対象</p>
<p><b>調査 3</b> (p.10-) <b>ヒアリング調査</b> 「日本語学習支援団体／子育て支援団体の取組」 ①②双方を含めた横浜市内外 13 団体を対象に活動内容等をヒアリング</p>		

調査から見てきたこと（考察）(p.19-)

## 調査1 横浜市内の子ども連れで参加可能な日本語教室数

「日本語教室データベース(横浜)」(横浜市国際交流協会ホームページ) から、子どもを連れて参加が可能な日本語教室を抽出し、以下の表にまとめました。「保育のある日本語教室」及び「子連れ可の日本語教室」の2つの項目に該当する日本語教室数を記載しています。

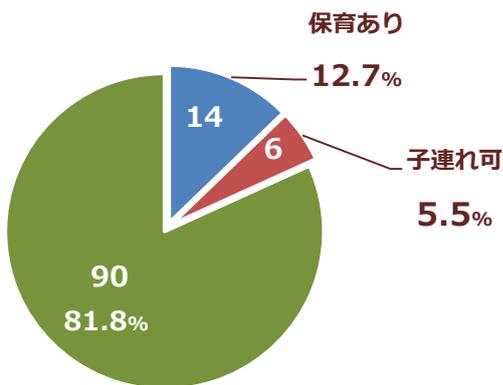
DATA

日本語教室データベース(横浜)(2015年3月31日現在)

<http://www.yoke.or.jp/jdatabase/search.html> (毎年状況調査を行っています。)

横浜市内の子ども連れで  
参加可能な日本語教室数

20教室 約18.2%



■ 保育あり 14

■ 子連れ可 6

■ 横浜市内の子ども連れで参加可能な日本語教室数

区	保育のある日本語教室数	子連れ可の日本語教室数	子ども連れで参加可能な日本語教室数 計
青葉区	2	1	3
磯子区	1	1	2
神奈川区		1	1
金沢区	1		1
港南区	2		2
港北区	1		1
都筑区	3	3	6
鶴見区	1		1
戸塚区	1		1
中区	1		1
緑区	1		1
合計	14 教室	6 教室	20 教室

注：この他にも相談に応じて保育または子連れ可の教室もありますが、公表を希望していないため表には含んでいません。

データベース上では横浜市内の110教室のうち20教室(約18.2%)が子ども連れを受け入れていると考えられます。そのうち、保育のある教室(保育付)が14教室、保育はないけれども子どもを連れて来てもよい教室(子連れ可)が6教室となっています。保育のある教室には、日本語教室とは別の部屋での保育(別室保育)と教室と同じ場所での保育(同室保育)があります。

## 調査2 地域子育て支援拠点における外国人の利用状況と支援

子育て

子育て支援施設での外国人の利用状況を知るため、地域子育て支援拠点を対象にアンケート調査を行いました。

### 調査の概要

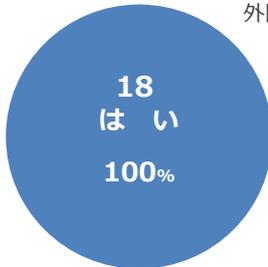
- ◎ 調査対象：地域子育て支援拠点の運営団体（18施設）
- ◎ 調査方法：アンケート送付
- ◎ 調査時期：2014年10月
- ◎ 回答率：100%

#### 地域子育て支援拠点とは

就学前の子どもとその保護者が遊び、交流するスペース（=ひろば）の提供、子育て相談、子育て情報の提供などを行う子育て支援の拠点です。  
市内各区に1か所ずつ設置されています。

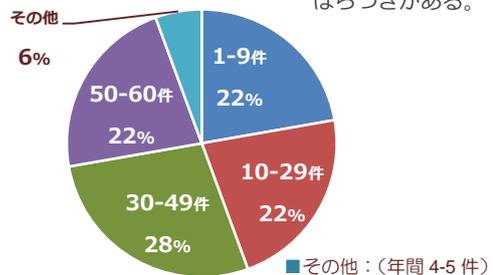
### 問1: 貴拠点において外国人等の利用がありますか。

→ すべての地域子育て支援施設で、外国人等の利用がある。



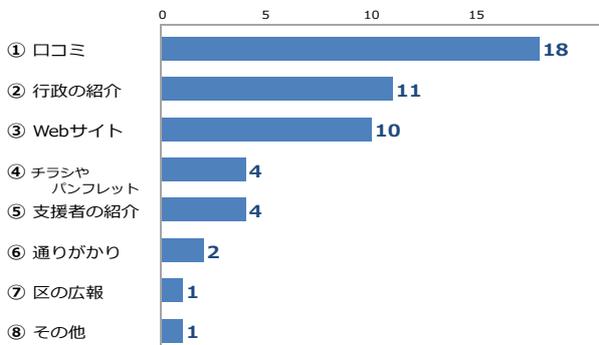
### 問2: 外国人等の利用(月別)はどのくらいありますか。

→ 施設によって、年4・5件～月60件とばらつきがある。



### 問3: 外国人等の利用開始のきっかけは何ですか。(複数回答あり)

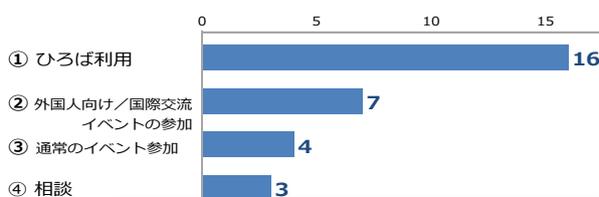
→ 口コミ、行政の紹介、webサイトが多い。



- ① 同国の友人、日本人の友人等
- ② 福祉保健センター、区役所等
- ③ ホームページ（拠点・区役所・国際交流ラウンジ）同国出身者のサイト等
- ④ 福祉保健センターで入手
- ⑤ 国際交流ラウンジ、病院等
- ⑧ 同じ建物に日本語教室がある

### 問4: 外国人等の利用内容。(複数回答あり)

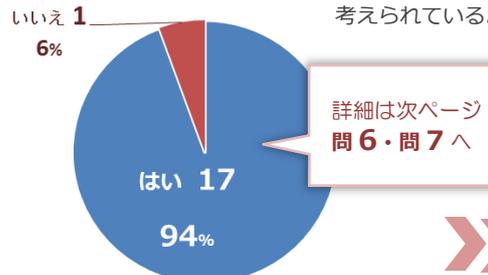
→ ひろば（親子の居場所）利用が多い。



- ③ おかゆの作り方講座、親子の交流プログラム、ベビーマッサージ等
- ④ 相談内容：子育て、保育園、仕事、日本語教室、医療等

### 問5: 外国人等に対し、言葉や文化の違いなどから特別な支援が必要なものがありますか。

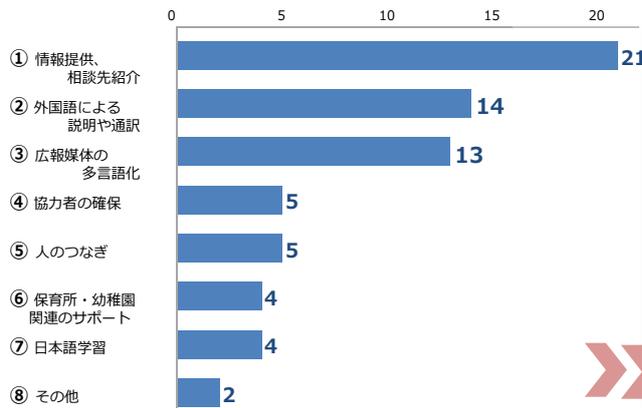
→ ほとんどの施設で、特別な支援が必要と考えられている。



詳細は次ページ  
問6・問7へ

## 問 6: (問 5 で「はい」の人) これまで具体的にいった支援 (複数回答あり)

→ ことば、情報伝達に関する支援が多い。



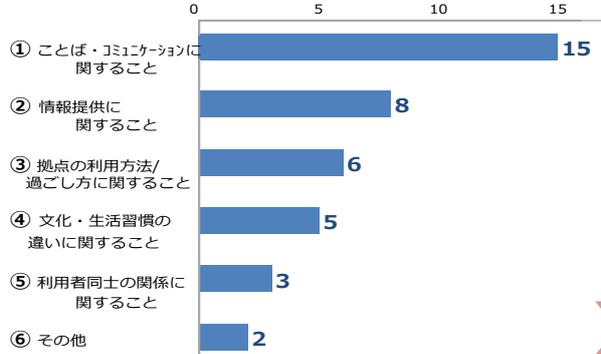
- ① 国際交流ラウンジ・外国人支援窓口紹介、育児、催し、区の相談窓口、就学の心得、多言語情報（防災・区版暮らしのガイド等）、母子手帳、DV相談、サークル活動、区役所での通訳依頼方法等
- ② 館内説明、育児相談へのアドバイス
- ③ 拠点のリーフレット、HP、拠点内の多言語表示等
- ④ 言語ボランティア、先輩ママ
- ⑤ 同国人とのつながり、同じ趣味の日本人とのつながり
- ⑥ 入園手続き、季節行事・イベントの説明、保育園からの手紙翻訳
- ⑦ 日本語教室紹介、ボランティアによる日本語支援プログラム、会話の練習相手
- ⑧ 文化の違いに対応（食事をする個室を案内）、外国語の絵本の設置



- ・区の国際交流コーナーへ同行し、窓口を紹介した。
- ・お弁当、おにぎりの作り方などを（あえて外国人対象ではなく）全体のプログラムとして開催

## 問 7: (問 5 で「はい」の人) これまでに支援が難しかったこと (複数回答あり)

→ ことばやコミュニケーション、情報提供（内容、多言語）、広く文化・生活習慣の違いもある。



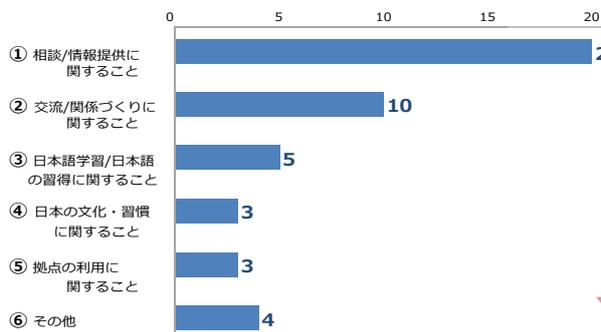
- ① 外国語による説明/少数言語への対応/日本語がわからない祖父母とのコミュニケーション 等
- ② 生活情報/子育て情報/保育所・幼稚園入園手続き/保育のある日本語教室/仕事/病院 等
- ③ マナー/ルール 等
- ④ 解釈の行き違いや誤解/「避難訓練」の主旨説明/母国の出産・育児風土文化への知識不足
- ⑤ 同じ言語の人間同士の仲間づくり 等
- ⑥ 国際交流ラウンジの紹介/外国人向けイベントの運営



- ・(利用者が) コミュニケーションの難しさを感じるためか、2回目の来所につながらない。
- ・悩みの内容は理解できたが、その気持ちを受け止めて英語で表現することが難しかった。
- ・(ルールの説明で) なぜそれが必要なのか、を伝えるときに文化の違いなどで理解されにくいことが多い。

## 問 8: 外国人等の利用ニーズについて感じること (複数回答あり)

→ 相談・情報提供、人との交流など。日本語学習ニーズも。



- ① 生活（医療、防災、ゴミの出し方等）/子育て（幼稚園・保育園情報、ママ友とのつきあいかた等）/多言語による相談（相談窓口等）等
- ② 外国人同士の交流/子ども同士のつながり/生きた情報交換/同じような経験（子育て経験）のある方との情報交換 等
- ③ 託児（無料）の日本語教室の問合せ
- ④ 日本人の気質への違和感 等
- ⑤ 区内で最も多い国籍の人の利用がない。
- ⑥ 遊ばせる場 等



- ・WEB 上には多くの支援情報が出回っているにもかかわらず、必要な情報がタイムリーに取得されていない
- ・日本人や日本語が話せる外国人と知り合え、友だちができるような交流の場がもっとあればいい。

### アンケート結果から

すべての地域子育て支援拠点で外国人の利用がありました。利用者の状況に合わせて、多言語で相談対応や情報提供を行ったり、利用者間の交流を促すプログラムを実施したりしています。コミュニケーションにおいて困難を感じる施設が多くありますが、語学の得意な利用者の協力を得たりと、工夫もみられました。また、外国人スタッフのいる施設もありました。

## 調査3 ヒアリング調査「日本語学習支援団体／子育て支援団体の取組」

### (1)ヒアリング調査の概要

◎調査対象：

対象団体・選定方法	区分	団体名	
<p><b>外国人親子が参加できる 日本語学習支援団体</b> (横浜市内6団体・市外3団体)</p> <p>◎選定方法 【横浜市内の団体】 「日本語教室データベース（横浜）」 （横浜市国際交流協会ホームページ）掲載団体から、地域や親子の参加形態のばらつきに配慮し選定。 【横浜市の外側の団体】・・・横浜市と状況に近い、都市部の国際交流協会が主催、または国際交流協会が側面支援をしている団体が行う、特徴的な取組を選定。</p>	<p><b>日本語</b></p> <p>親対象の 保育付 日本語教室</p>	<p>1. 港北国際交流ラウンジ 日本語教室（港北区）</p> <p>2. つづき日本語サークル（都筑区）</p> <p>3. NPO 法人ハーティ港南台 日本語会話教室（港南区）</p>	<p>日本語学習支援</p>
	<p>親対象の 子連れ可 日本語教室</p>	<p>4. A日本語教室（仮名）</p> <p>5. ハンナの会（都筑区）</p>	
	<p>親子対象の 日本語教室 など</p>	<p>6. 鶴見国際交流ラウンジ 外国人親子カンガルーサロン（鶴見区）</p> <p>【市外1】親子で学ぶ日本語サロン （神奈川県川崎市）</p> <p>【市外2】親子日本語教室 （東京都町田市）</p> <p>【市外3】日本語交流活動／ 多文化保育にこここ（大阪府豊中市）</p>	
<p><b>外国人・日本人問わず 親子が参加できる 子育て支援団体</b>（横浜市内4団体）</p> <p>◎選定方法 地域子育て支援拠点等子育て支援団体から、特徴的な取組や、地域的なばらつきに配慮して選定。</p>	<p><b>子育て</b></p> <p>子育て支援の場 での日本語教室</p>	<p>7. 横浜市北上飯田保育園（泉区）</p>	<p>子育て支援</p>
	<p>子育て支援</p>	<p>8. サロン・デ・チャルラス （青葉区・都筑区）</p>	
	<p>地域子育て支援 拠点</p>	<p>9. 港北区 地域子育て支援拠点 だろっぴ</p> <p>10. 瀬谷区 地域子育て支援拠点 にこてらす</p>	

◎調査方法：団体の活動見学及び運営者等に対するヒアリング。また可能な範囲で、外国人参加者（利用者）にも話を聞いた。

◎主なヒアリング内容：

**基本データ：**① 運営主体 ② 対象 ③ 活動場所 ④ 活動日時 ⑤ 活動内容  
⑥ 子ども参加条件 ⑦ 保育の形態 ⑧ 保育担当

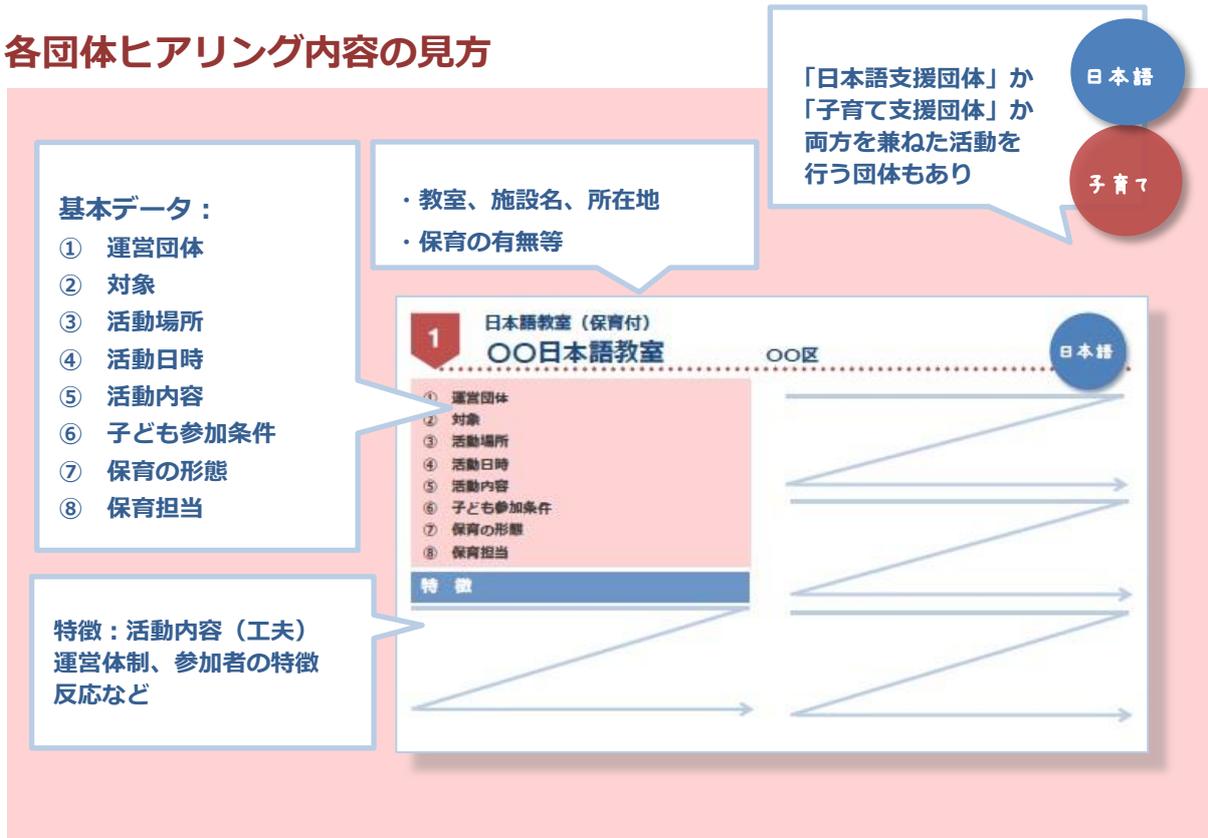
**特徴：**活動の特徴（※）、運営スタッフ間、他団体等の連携、外国人への配慮等。

※「団体の特徴」と「(学習者・利用者含めた)外国人の特徴」を含みます。

◎調査時期：2014年10月～12月

## (2)団体別データ

### 各団体ヒアリング内容の見方



### 1 日本語教室（保育付） 港北国際交流ラウンジ日本語教室 港北区 日本語

- ① 国際交流ラウンジ
- ② 高校生(相当)以上
- ③ 国際交流ラウンジ
- ④ 月曜・木曜午前
- ⑤ 少人数で、生活に必要な日本語を、学習者のレベルに合わせて教える。
- ⑥ 月曜：1歳以上、木曜：2歳以上（人数制限あり）
- ⑦ 親子別室
- ⑧ 保育専門スタッフ（有償）と日本語ボランティア

#### 特 徴

- 日本語教室は全体で8教室あり、水曜日以外毎日開催されている。月曜日と木曜日の午前の教室のみ保育付となっている。
- 保育がある日（月、木）は、使用する3部屋

のうち、2部屋を日本語教室、1部屋を保育室として使用している。

- 保育利用者は、平均5名程度。
- ラウンジ窓口スタッフが、保育も含めた受付を担当し、保育は、NPOから派遣された有償の保育スタッフが担当している。
- 別室保育なので、親は日本語の学習に集中でき、子育てのストレスを解消できる。
- 日本語教室は少人数なので、学習者がボランティアに子育ての悩みを相談することもある。
- いつからでも教室に参加でき、学習者の居住地も限定していませんので、だれでも参加できる。
- 現在は保育希望者が多く、全員を受け入れられない。保育付の教室は週2回あるが、一人につき週1回のみ可能としている。

2

## 日本語教室（保育付） つづき日本語サークル

都筑区

日本語

- ① ボランティア
- ② 大人
- ③ 国際交流ラウンジ
- ④ 木曜午前
- ⑤ マンツーマンまたは小グループでの日本語学習
- ⑥ 8か月～未就学
- ⑦ 親子別室
- ⑧ 保育ボランティア

### 特 徴

- 教室は木曜午前と火曜夜開催。保育は木曜午前のみ。
- 保育を開始して、15年以上たつ。
- 学習者は、都筑区内に住む主婦が多い。
- 別室保育だが、慣れない場合は、子ども連れで学習。
- 日本語ボランティアと保育ボランティアの連携を図っている（日本語ボランティアに保育担当者をおく。交流イベントには保育ボランティアにも声をかける。保育ボランティアの引き継ぎノートは日本語ボランティアもみる）。また、子どもへの対処なども、みんなで話し合うことがある。
- 保育ボランティアは育児経験のある人。口コミやスカウトで確保。
- 国際交流ラウンジ（つづきMYプラザ）との連携によるメリットがある。安定した会場確保。保育スペースの確保。団体のロッカーがある。おもちゃやマットの貸与が受けられる。教室の案内もしてくれる。

3

## 日本語教室（保育付） NPO 法人 ハーティ港南台 日本語会話教室

港南区

日本語

- ① ボランティア（NPO 法人）
- ② 誰でも可
- ③ マンション集会所
- ④ 金曜午前
- ⑤ **日本語教室**→基本的に一対一で日本語の基礎を学習。対話学習にも力を入れている。  
**保育**→お母さんが安心して日本語を学べるように配慮しながら子どもを本やおもちゃで遊ばせる。
- ⑥ 特になし
- ⑦ 親子同室
- ⑧ キッズケア担当ボランティアが中心。親子で参加もあり。手の空いている日本語ボランティアが参加することもある。

### 特 徴

- しているため、気兼ねなく参加しやすい。
- 保育の利用者は、平均 5-6 名程度。
- 最初にお母さんと一緒に手遊びや読み聞かせをしている。
- 保育の場を、子どもが幼稚園等に行く前に集団活動を経験できる貴重な場としても位置づけている。
- 保育には、あそびコンサルタント、保育士資格保有者、子育て中の母親等多様な人たちがボランティアとして関わっている。
- 親子同室なので互いに顔が見え、教室と保育の場の行き来も自由なため、親子が安心できる環境にある。
- 積極的に子連れのお母さんたちの受け入れを



4

日本語教室（子連れ可）

A 日本語教室（仮名）

日本語

- ① ボランティア
- ② 中学生以上
- ③ -
- ④ -
- ⑤ 1対1またはグループで、生活支援として、日常生活に満足できるように日本語を身に着ける。
- ⑥ 自己責任で連れてくることを文書で確認。
- ⑦ 保育なし（子連れ可）
- ⑧ なし。原則、親が責任を持つ。

- 子育て中の母親は日本語を使う必要度が高いので、子連れの希望者が来た場合は教室の状況を伝え、それでもよければ自己責任において子どもを見ることを条件に受け入れている。
- 子連れの学習者は、平均3名程度。

特徴

- 日本語教室の場所の一角に子どもが遊べるスペースがあるので活用している。
- 保育の人員や子どもの為の安全なスペースを確保できないので、日本語教室データベース上では「子連れ可」としていない。



5

日本語教室（子連れ可）

ハンナの会

都筑区

日本語

- ① ボランティア
- ② 大人
- ③ 国際交流ラウンジ
- ④ 毎週金曜午前
- ⑤ マンツーマンまたは小グループでの日本語学習
- ⑥ 特になし
- ⑦ 保育なし（子連れ可）
- ⑧ なし

- 教室ではなく、学習内容をかっちりたてないことが、子連れでも問題がない理由の1つ。
- 子連れ学習者は、学習者約20人中3~4人。
- 「離乳食をどうすればよいか」など、子育ての相談に乗ることもある。
- 子どもがいても問題ない。子どもの様子を話すことが日本語の教材になる。
- ボランティアになるのに、日本語指導経験や講座受講歴は問わない。
- 教科書を使った学習中心が良い人には、他の教室を薦める。
- つづき MY プラザの日本語ボランティア連絡会に参加し、他団体とも情報共有、連携を行っている。

特徴

- 教室活動は教科書を使わず会話中心。きっちりしたカリキュラムは設けていない。学習者ニーズに合わせた柔軟な対応をしている。
- 設立当初から子連れ可。シビアな授業を望む

6

親子日本語教室／子育て支援

鶴見区

日本語

鶴見国際交流ラウンジ 外国人親子カンガルーサロン

子育て

- ① 国際交流ラウンジ
- ② 親子（親対象、子ども対象、親子対象の活動あり）
- ③ 国際交流ラウンジ
- ④ 年2期（1期6回、全12回）
- ⑤ 親→教室形式で、子育てに関する日本語の情報と日本語を学習する。  
子(親子)→遊びの中で日本語に触れる。
- ⑥ 特になし
- ⑦ 親子同室
- ⑧ 保育専門スタッフ（有償）保育担当ボランティア  
日本人親子

特徴

- 子どもを対象として読みかせ、手遊び歌、紙芝居などの活動がある。
- 親が子どもの活動と一緒に参加することで、子どもの遊びや歌を共有できる。
- 同室保育で、親子が自由に行き来できるため、互いに安心できる。

- 平均8組程度の親子の参加がある。
- スタッフに日本語教師がいる。
- 絵本などを使って、子どもの日本語支援も視野に入れて活動を行っている。
- ボランティアやラウンジスタッフが連携し、多言語にも対応が可能。
- 子育てに必要な情報として、外部から保健師、消防署職員、図書館司書等を呼んで活動を行うこともある。
- 日本人親子も参加することで、母親同士、子ども同士が触れ合うきっかけを作っている。日本人母親は、外国人母親の日本語学習のサポートも行う。
- 毎回の活動終了後に振り返りの時間をもち親子の様子や情報を共有、課題を話し合い、次の活動に活かしている。

市外 1

親子日本語教室

親子で学ぶ日本語サロン

神奈川県川崎市

日本語

子育て

- ① ボランティア
- ② 原則1歳まで（2歳まで可）の子を持つ外国人親子
- ③ 川崎市国際交流センター
- ④ 金曜午前（期間限定）
- ⑤ 子育て中の外国人が日常生活に必要な日本語や情報を学ぶ
- ⑥ 原則1歳まで（2歳まで可）
- ⑦ 親子同室（イベントにより別室）
- ⑧ ボランティア

特徴

- 開講期間は春期9回、秋期10回、冬期6回
- 会話を通して生活日本語を学ぶ。教科書は使わず独自の資料やイラストを用いる。
- 子育てを中心としたテーマに基づく活動。
- 学習者の要望により救命救急（消防署）、保健

- 師などを招く。
- 国際交流協会主催のボランティア研修（託児付）受講者有志がたちあげた。
- 立ち上げ当初の研修講師がアドバイザーとして関わる。定期的に研修あり。
- 参加者受付、広報に関しては市国際交流協会とも連携。
- 市からの助成金を申請している。
- ボランティアに子連れの人がいるため、育児に関する情報の提供がしやすい。
- 子どもの対象が2歳までなのは、保育付日本語教室（2歳～）の橋渡しであるため。
- ボランティアは、毎回の活動や親子の様子をメールと毎回の活動前後の打ち合わせで共有している。

市外 2

親子日本語教室  
親子日本語教室

日本語

子育て

東京都町田市

- ① ボランティア
- ② 1.5歳までの子を持つ親
- ③ 町田市民フォーラム（保育・託児室）
- ④ 水曜午前
- ⑤ 子育て支援
- ⑥ 1.5歳まで
- ⑦ 保育なし
- ⑧ なし

特徴

- ひきこもりがちな外国人親子が外へ出て人と話す機会となっている。
- 会話、情報交換、子どもが遊ぶ場。
- カリキュラムは作らない。

- 日本語教室の保育可能年齢前の受け入れの場。
- 子育ての話を中心にする。
- 子育て支援センターから保育士を月1回派遣してもらう。子育て情報。
- 国際交流財団が事務局。広報、会場手配等。
- 日本人親子の参加もあり。
- 会場が託児室なので、安全面やおもちゃなど環境が良い。
- 親子同室のため、子どもも安心して過ごせる。
- 出産前には日本語教室に通っていた学習者が出産後に親子日本語教室に来ている。
- 子育て支援拠点等の他の母親と交流できる場と一緒に出かけられることもある。

市外 3

日本語教室／多文化保育  
日本語交流活動／多文化保育にここ

日本語

子育て

大阪府豊中市

- ① ボランティア
- ② 日本語交流活動→大人  
多文化保育にここ  
→外国人保護者と就学前の子ども
- ③ 国際交流センター内
- ④ 木曜午後、金曜午前
- ⑤ 日本語交流活動→生活に必要な日本語を学ぶ  
にここ→遊びの体験、子育ての話など
- ⑥ 未就学
- ⑦ 保育あり
- ⑧ にここ→ボランティア

特徴

- 国際交流協会主催、運営はボランティア
- 日本語交流活動 —
- 交流のための活動。日本語交流を通じて、生活に必要な日本語を学び、豊かな人間関係を築く。

- 日本語教室ではなく、「日本語交流活動」。
- 多文化保育付は木、金とあるが、国際交流協会の多言語相談サービスが受けられる金曜日の活動が人気。

— 多文化保育にここ —

- 託児ではない。
- 絵本読み聞かせや手遊びなども行い、社会生活に慣れるための場づくりを行う。
- 日本語交流活動と同じ時間に実施し、親だけが日本語交流活動に参加することも可。
- ボランティアは、保育士資格または子育て経験のある人。
- その他、外国人女性と子どものための「おやこでにほんご」を市内3か所で開催。（「おやこでにほんご」はボランティアも子育て中の女性。）

7

子育て支援の場での日本語支援  
横浜市北上飯田保育園

泉区

日本語

子育て

- ① 保育園（子育てサロン）
- ② 誰でも
- ③ 保育園
- ④ 木曜午後（休みの月あり）
- ⑤ 保育園→子育て支援の一環として地域に開かれた日本語教室  
日本語教室→グループ活動。  
生活に密着したテーマに沿った日本語学習。
- ⑥ 特になし
- ⑦ 親子同室
- ⑧ 保育園の保育士

特 徴

— 保育園 —

- 在園児の約 90%が外国につながる子ども。
- 中国語、ベトナム語、カンボジア語通訳・翻訳者の配置。お知らせ文書の翻訳や行事の通訳。
- お母さんの母語を大切にしている。

- 保育士が日本語教室の保育を担当。  
お茶の時間には学習者の日本語の会話の相手になる。保育士の研修にもなっている。

— 日本語教室(子育てサロン) —

- 保育園という保育専門の場で、保育士が保育を担当することから、安心して小さい子どもを預けることができる。
- 子連れの参加者は、平均 5, 6 名程度。
- 日本語教室は 3 名のボランティア（言葉サポーター）で運営している。
- 地域住民にも開かれた日本語教室であることにより、地域住民同士の接点にもなり、子育て支援にもつながっている。
- 仕事を探すために日本語を学び、その後、保育園に子どもを預けて働く母親もいる。

8

子育て支援  
サロン・デ・チャルラス

青葉区/都筑区

子育て

- ① ボランティア
- ② 未就学の子と親を中心に、誰でも（国籍問わず）
- ③ ケアプラザ、地区センターなど
- ④ 月 2 回程度、火曜・木曜午前
- ⑤ おしゃべりを通じた情報交換、生活支援、異文化理解。
- ⑥ なし
- ⑦ 保育なし
- ⑧ なし

特 徴

- 活動のきっかけは日本語ボランティア経験。子連れで行く場所がない学習者や、いじめに合う外国人の子どものお話に接し、小さい時から異文化とふれあうことが大切だと思った。

- 誰もが気軽に参加し、その中で自然と情報交換したり、子育てに必要な情報を伝えたりしていく。
- 参加者は、外国人より日本人親子の方が多い。
- 最初は青葉区のみ、子育て中の外国籍住民の多さから都筑区も始めた。都筑区では、地域子育て支援拠点が実施する「子育て相談」と連携している。
- メンバーが関わる日本語教室との合同行事がある（バス旅行やパーティ）。
- 区の助成金を受けている。
- 多言語情報の所在がわからない外国人が多いと感じる。

9 子育て支援 港北区地域子育て支援拠点 **どろっぷ** 港北区 **子育て**

- ① 地域子育て支援拠点（NPO 法人）
- ② 主に親子（0～3 歳の未就学児とその保護者、祖父母等親以外も可能。）
- ③ 地域子育て支援拠点
- ④ **どろっぷ**→ 火曜～土曜  
**異国交流ランチミーティング**→ 月 1 回昼
- ⑤ **どろっぷ**→ 親子が気軽に立ち寄り、遊んだり、ゆっくり過ごせる場づくり  
**異国交流ランチミーティング**→ 各国の料理を持ち寄るなどして昼食をとりながらおしゃべり。情報交換、テーマを決めた話し合い等。
- ⑥ 特になし（主に 0～3 歳の未就学児）
- ⑦ 保育なし
- ⑧ なし

**特 徴**

— **どろっぷ** —

- HP やチラシの多言語化(英語、中国語、韓国語)。
- 英語版カレンダーなどは、英語が堪能な利用者がボランティアで協力。

- 独自に外国人向けの子育て関連情報を収集し、提供している。
- 歓迎メッセージの多言語掲示物を作成。また、多言語の「お誘いカード」作成計画中。

— **異国交流ランチミーティング** —

- 外国につながる親やその家族の支援に興味のある親の交流の場。
- 各自ランチを持ち寄って、テーマを決めて話し合う。和気あいあいと話す中でニーズを拾い上げている。
- 平均 5 組程度の親子の参加があり、スタッフは交代で担当している。
- 現在の参加者は、外国人と国際結婚した日本人母親が多い。
- 母国語で話せる時間、外国人母親同士のネットワーク作りを念頭に置いている。

10 子育て支援 瀬谷区地域子育て支援拠点 **にこてらす** 瀬谷区 **子育て**

- ① 地域子育て支援拠点（NPO 法人）
- ② 主に親子（0～3 歳の未就学児とその保護者、祖父母等親以外も可能。）
- ③ 地域子育て支援拠点
- ④ 火曜～土曜
- ⑤ 交流スペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供など
- ⑥ 主に 0～3 歳の未就学児
- ⑦ 保育なし
- ⑧ なし

**特 徴**

- 外国人向けのイベントはないが、外国籍の人の利用を広げるのが目標のひとつとなっている。
- 外国人親子の利用は、月平均のべ約 10 件。

- 拠点内のサークルで各国の粉もの料理を紹介し合うイベントを実施した。
- 外国人支援団体、地域の子育て支援 NPO 団体などと連携し、多言語情報を得たり外国人事情を把握したりしている。
- 同じ建物で行っている日本語教室との連携あり。日本語学習希望者に教室を紹介等。
- 多言語リーフレットを作成。
- 団地の集会所で出張ひろばを月 1 回開催（外国人の参加あり）。
- 外国人のニーズは、友達がほしい、幼稚園などの情報がほしい、日本人の子どもと遊ばせたいなど。
- 外国人スタッフが 2 人いる（フィリピン、中国）。

### (3)外国人参加者（利用者）の声 ―ヒアリングから―

#### ここ（日本語学習支援団体・子育て支援団体）に通うのは・・・

ネットでは見つからない  
今の**子育て情報**を知ることができる。

出産前は日本語教室で勉強していた。  
今は**子育ての話**をすることが勉強になる。

**子どもが行きたがる。**  
疲れていても気分転換になる。

ここがあってよかった。  
**家で子どもと二人きりは大変。**

**子どもを預かってくれる**ので  
日本語が勉強できていい。

ここは**情報**もあるし、  
**子どもの遊び**もできるから助かる。

日本語をゆっくり話せるし  
聞いてくれるからうれしい。  
**成人なのに伝えられないのはつらい。**

出産前に通っていた**日本語教室**から  
**ここ（親子教室）**を紹介された。

#### 生活で困っていること、心配なこと・・・

**日本での子育てが心配**

日本語ができないから  
**幼稚園や病院の先生と話せない。**

子連れ OK の日本語教室でも  
子どもが泣いたりするから…。

**子どもの日本語や母語が心配。**

**日本人の友達がいらない。**

家庭では中国語なので  
**子どもは日本語がわからない。**

子育てひろばに行っても外国人から話しかけられない。  
日本人も話しかけてこない。

## Ⅲ. 調査を終えて

### 1 調査から見てきたこと（1）日本語学習支援団体／子育て支援団体の取組から

横浜でも外国人親子のための日本語学習支援及び子育て支援として多様な活動が行われていました。ここでは対象団体ごとに、調査から見てきたことをまとめます。

#### 1 外国人親子が参加できる日本語学習支援団体

外国人親子が参加できる日本語学習支援団体として調査した、親を対象とした日本語教室（保育付または子連れ可）と、親子を対象とした日本語教室は、いずれも、日本語学習の貴重な場となっていました。子ども連れの学習者は、体系的なカリキュラムをきちんと進めることが難しい場合もあるため、学習者の希望に応じてゆるやかなものにするなどの配慮もされていました。

このような日本語教室では、受け入れ人数に限りがあり、希望する親子全員を受け入れられない場合もあります。また、日本語ボランティアと保育スタッフとの情報共有や連携も必要です。ヒアリングでは、日本語ボランティアも保育に入ったり、保育の情報を共有する等の工夫がされていました。

日本人親子をボランティアとして積極的に受け入れている団体もありました。同じ幼い子どもを抱えた母親同士で今の子育て情報の交換や悩みの共有ができ、外国人・日本人親子が知り合うきっかけにもなっています。

さらに、国際交流ラウンジ等との連携により、安定した会場確保やロッカー、おもちゃ等の借用、保育も含めた受付などについて協力体制ができて例や、外部のNPO等から保育スタッフを派遣依頼する例等、ニーズに応えるための団体外との連携が見られました。

#### <日本語教室（保育付）>

**別室保育**は、日本語教室とは別の部屋で子どもを預かるため、親が日本語学習に集中できるというメリットがあり、子どもと離れて日本語を学ぶことが、子育てのストレスを解消する

時間にもなっているということでした。

一方で、保育の部屋やスタッフの確保が必須で、親子が別の空間で過ごすため、日本語ボランティアとの協力や連携が重要であり、親子が安心できる配慮が必要です。

**同室保育**は、日本語教室と同じ場所に保育のスペースがあるため、親子は互いの姿が見ることができ、行き来しやすいことから、親子が安心できるというメリットがありますが、日本語教室としての機能と保育としての機能を兼ね備えたスペースであることが望まれます。保育園や地域子育て支援拠点などの子どもの保育として安心できる場で日本語教室が行えることが解決策の一つとして考えられます。

#### <日本語教室（子連れ可）>

「子連れ可」としている教室は、親が自己責任で子どもを連れてくることが多く、子育て中の日本語学習の必要性とその大変さを理解して受け入れています。しかし、小さい子どもは走り回ったり騒いだりすることもあり、他の学習者への気兼ねや安全面の心配もあります。教室に参加する親子だけでなく他の参加者も安心できるよう、保育があるほうが望ましいですが、子連れの学習者は毎回の参加が難しく、保育を常時準備することの難しさがうかがえました。

#### <親子対象の日本語教室など>

親子を対象とした日本語教室は子育て支援も視野に入れていると考えられます。今回ヒアリングした団体は、いずれも国際交流協会（国

際交流ラウンジ)と関わりをもち、その運営は日本語ボランティア主体で行われていますが、国際交流協会(国際交流ラウンジ)スタッフが募集、受付、部屋の確保等、運営のサポート役を担っており、役割を分担することで円滑な運営を行っていました。

日本語ボランティアは、子育て支援としての日本語教室の必要性を実感し、親子のニーズに合わせたカリキュラムを工夫していました。例えば、保育士、保健師等を招いて話を聞いたり、消防署との連携で救急救命講座を行っています。外部との連携により、多彩な子育て支援のプログラムと日本語学習をつなげていく可能性があります。乳幼児を連れて来るため、天候によっても参加者数が大幅に増減する大変さがあり、外部を含めた協力体制による安定した運営が重要だと考えられます。

また、さらなる工夫例として、ある国際交流協会では、日本語交流活動と同時間帯に多文化保育を実施しています。親は子どもを多文化保育に預けて一人で日本語交流活動に参加して

もよいし、子どもと一緒に多文化保育に参加し、様々な遊びを体験したり子育てについて話すこともできます。また、市内3か所の図書館で、外国人親子を対象とした日本語交流活動を行っています。生活に近い場所での活動は参加者にとってアクセスが良く、地域特性に合わせた活動が可能です。ボランティアも子育て中の女性であり、全ての参加者にとっての居場所となっていると思われます。

アクセスの良さという面では、横浜市でも、子育て支援の場において日本語を学ぶ環境を作る取り組みも行われています。地域子育て支援拠点や保育園を利用する外国人等を対象として、普段利用している場所を活用し、ボランティアと協働で日本語教室を開催する取組があります。また、施設のスタッフが個別に話し相手となり、日本語学習となっている例もありました。日本語教室を探して通うことが難しく、継続して通いたくても通えない人にとっては、なじみのある子育て支援の場で日本語が学習できることは大きなメリットとなります。

## 2 外国人、日本人を問わず親子が参加できる子育て支援団体

外国人、日本人を問わず親子が参加できる場として、保育園、地域子育て拠点などの公的な機関やボランティアによる子育て支援団体があり、外出する機会の少ない親子が外に出て他の親子と交流する貴重な機会となっています。子どもにとっては親以外の大人や同年代の子どもと接し、ことばや遊びに触れる機会であり、親にとっては子育て情報の入手、親同士知り合う機会とともに、子どもの遊びを知る機会にもなっています。

子育て支援団体は、子どもが安全に遊べる環境が整えられているところが多く、特に地域子育て支援拠点では、専門のスタッフがおり、子育てに関する相談や情報も整備されています。ヒアリングした団体は、日本人にも外国人にも開かれており、まさしく多文化共生の場となっていました。そのため、医療や防災、保育園、幼稚園の情報の不足や遊び場、友人が欲しいと

いった外国人親子のニーズを拾い上げられる場でもあります。

しかし、日本人親子と外国人親子が同じ場にいれば知り合えるわけではなく、交流するためには何らかの働きかけが必要です。地域子育て支援拠点では、外国人を対象としたプログラムの開催、多言語情報の収集、外国人スタッフの配置、外国語による読み聞かせなど、施設により工夫されていました。

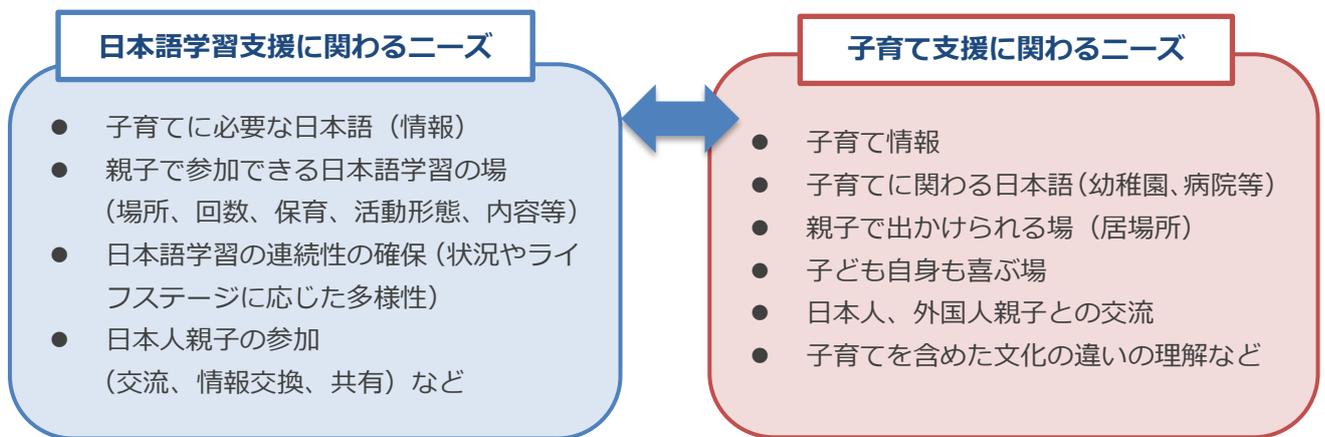
子育て支援の場では、外国人であっても日本語ができないと参加しにくい面があります。ヒアリングでは、日本人利用者の中で外国語が堪能な人が通訳や翻訳をするなど、スタッフと利用者の協働でサポートをしている例もありました。また、国際交流ラウンジやNPO、地域のサークルとの連携も試みられています。日本語学習支援のニーズもあり、さらなる連携の可能性が考えられます。

## (2)外国人親子支援としての、

### 日本語学習支援・子育て支援のニーズと場の提供

#### 日本語学習支援・子育て支援のニーズ

本調査から、支援団体（日本語学習支援／子育て支援団体）と一部の外国人利用者いずれからも、就学前の子どもと親の支援に対するニーズについて聞くことができました。そして、その内容は、日本語学習支援・子育て支援と分けられるものではなく、両方の側面を持っていることが分かりました。



（注）支援団体／外国人利用者の意見を合わせています。

#### 外国人親子が参加しやすい場とは

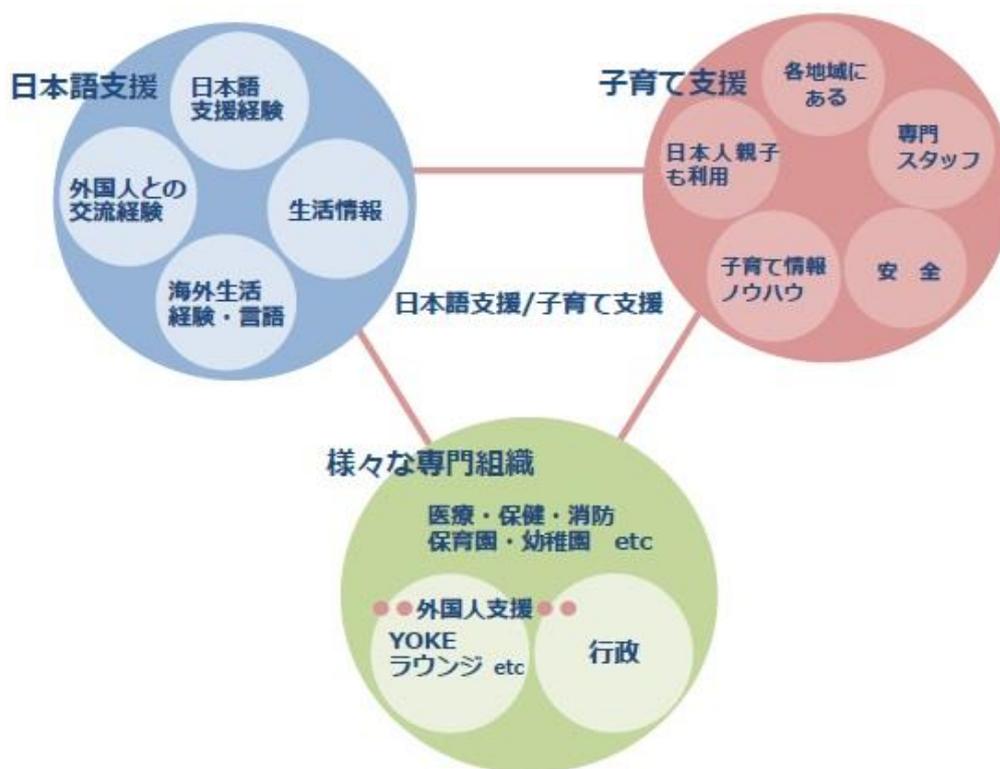
このようなニーズをもつ外国人親子が参加しやすい場とは、どのようなところでしょうか。図は、調査から見えた要素を列挙したものです。多様な活動形態・多様な環境があること、そして、そのような場があるという情報が、外国人親子に届けることが、参加を促す大きな要素かもしれません。



## 日本語学習支援団体・子育て支援団体・様々な専門組織の連携

前述のような親子が参加しやすい場を作るためには、日本語学習支援、子育て支援双方のニーズに配慮する必要があります。日本語学習支援団体・子育て支援団体それぞれが、活動のなかでお互いの要素を補完することになりますが、団体単独で取り組む必要はなく、すでに実施されている例もあったように、行政や外国人支援団体等の専門機関との連携によって、多様な支援をさらに広げることができるのではないのでしょうか。

例えば、地域子育て支援拠点の外国人利用者を対象に、地域子育て拠点と横浜市国際交流協会・消防署等が連携し、小児救急法講座を実施したことがあります。このように、専門機関の強みを生かしあうことで、さまざまな取組が行えますし、取組を知る人が増えることで、参加ニーズのある人に、より伝わりやすくなります。



## 2 調査を受けて～日本語学習コーディネーター業務アドバイザーから～

本業務を実施した「日本語学習コーディネーター業務」では、日本語教育専門家等などに、アドバイザーとして業務に対するご助言をいただいています。本調査を受けて、アドバイザーのお二人からコメントをいただきました。

### 「誰もが安心して暮らすための日本語学習支援と子育て支援とは」

石井恵理子先生（東京女子大学現代教養学部教授）

今回の調査結果を見て、就学前の子どもと親の支援の必要性を改めて感じました。横浜市が行った外国人意識調査とも符合しています。私が関わった「横浜市外国人インタビュー調査」でも、子育てが始まることで、子どもに対する期待や責任感から地域との関わりが違ってきていて、本調査結果と重なります。

横浜のような都市部においては、小さい子どもをもつお母さんは日本人でも孤立しがちで、子育ての悩みの相談、情報やアドバイスが得られることは大きな支えとなります。横浜市には日本人、外国人の隔てなく受け入れる場が各地域にあります。子育ての初期の段階で支援できるかどうかは、子どもの育ちを左右する問題でもあります。

親にとって、子どもの病気やけが、発育上の問題に関わる場合は緊急性が高く、外国人の場合には情報が十分に届く・伝えられることは日本語力と切り離せない問題です。親として子育てのために知りたいこと、やるべきことがあり、それを具体的な形で実現する活動の中でこそ、必要なことばが学ばれるのです。子どもが保育所(幼稚園)に入ると、文字情報も必要になってきます。日本人と同レベルの読み書き能力を求めるということではなく、保育所など外国人の親と関わる日本人側の配慮や工夫も含めて考える必要があります。

親と子それぞれへの日本語支援だけでなく、「親子」への支援も重要です。親子が一緒に手遊び歌やゲームなど、遊びの中には実は多くのことばの学びが埋め込まれています。多様な言語文化の親子が集まって楽しく遊ぶ場には、家庭とはまた違った豊かなリソースがあり、親子が他者と触れ合うことが、ことばや文化の学習につながるのです。

子育ては文化継承の中核的な部分であり、外国人親にとっては日本の規範への葛藤もあることは考慮されるべきです。そこで、日本人だけでなく、外国人当事者が支援者として関わることによって、文化の相互理解や子育ての不安の軽減にもつながるでしょう。就学前からこのような支援があれば、学校に通うようになってからも、日本の学校文化が理解しやすくなります。

これらのような支援が可能となるためには、日本語学習支援を含めた市民による子育て支援活動と行政がつながり、保健、医療、教育等、子育てに必要な情報がきちんと届くシステムができることが必要です。専門家のサポートが必要に応じて受けられるようになることも重要でしょう。横浜には既にそのための人的資源があり、連携ができていところも見られ、心強く思います。さらに、実践が積み重なっていく中から、横浜に合ったやり方ができていくのではないのでしょうか。(談)

## 「外国人の親子にも、地域とのつながりを」

中山利恵さん（日本語教師、中国出身）

聞き手（YOKE）：日本に最初に来たとき、生活はいかがでしたか。

中山：最初は緊張しました。外に出られませんでした。郵便局に行くにも道をたずねることができませんでした。長く住んだら日本は安全な国と分かりますが、来たばかりの人にこういう段階、時期があるのは今も同じかなと思います。子どもをもつお母さんが、家で孤立していることもあると思います。

YOKE：そのような外国人のお母さんには、どう接すればいいとお考えですか。

中山：「お母さんが家にこもっている」などの情報に気付くのは地域です。町内会、自治会などは、どんな人が住んでいる、外国人がいるということがわかります。区役所で転入の登録をするので、区役所は情報を持っています。赤ちゃん訪問や健診でつながるチャンスもあります。

YOKE：学校にあがる前の子どもへの支援について、感じることはありますか。

中山：外国人の子どもにも、学校に入る前に誰かと日本語でしゃべるチャンス、保育園などで日本語を少しでも話すチャンスがあればいいのに、と思います。日本社会とのつながりや予備知識があれば、小学校にもスムーズについてこられます。

外国の親子が日本語を学ぶには、地域にもともとある公民館などで日本語教室を行うのはどうでしょうか。地域にある施設、組織を使って、そこには外国の住民もいるので、一緒に伝えていけたらいいと思います。外国人がサポーターになれば、そういう気持ちもわかって、先輩みたいな役割ができます。

## IV. 参照サイト

---

横浜市の外国人人口（横浜市政策局統計情報課）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/>

国際交流ラウンジ（公益財団法人横浜市国際交流協会／横浜市政策局国際政策課）

[http://www.yoke.or.jp/3lounge\\_renkei/3\\_2lounge.html](http://www.yoke.or.jp/3lounge_renkei/3_2lounge.html)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/multiculture/internationalounge/>

平成 25 年度外国人意識調査報告書（横浜市政策局国際政策課）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/multiculture/chosa/h25report.pdf>

平成 25 年度外国人インタビュー調査報告書（横浜市政策局国際政策課）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/multiculture/chosa/h25interviewreport.pdf>

日本語教室データベース（横浜）（公益財団法人横浜市国際交流協会）

[http://www.yoke.or.jp/8nihongo/8nihongo\\_gakushu\\_shien.html](http://www.yoke.or.jp/8nihongo/8nihongo_gakushu_shien.html)

ヨコハマ国際まちづくり指針～国際性豊かなまちづくりを目指して～（横浜市政策局国際政策課）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/multiculture/machiiinkai/machisisin/>

2014（平成 26）年度横浜市委託事業日本語学習コーディネート業務

横浜で生活する就学前の外国人親子のための日本語学習支援・子育て支援調査報告書  
～「就学前の子どもと親の支援に関する取組調査」から～

---

本報告書は、横浜市の委託により、公益財団法人横浜市国際交流協会が作成しました。

発行日 2015（平成 27）年 3 月

編集・発行 公益財団法人 横浜市国際交流協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1

パシフィコ横浜 横浜国際協カセンター5F

電話 045-222-1173（多文化共生課）

<http://www.yoke.or.jp/>

---